

# リーダーのためのガイドブック（改訂版）

子どもとの接し方

プログラム案

安全管理編



財団法人日本宇宙少年団

平成18年9月

# はじめに

この「リーダーのためのガイドブック（改訂版）」は、日本宇宙少年団（YAC）活動、特に分団活動において指導者の皆様方が必要とする情報として、子どもに対する接し方とプログラム案を中心に、子どもを取り巻く環境や安全管理についても記載いたしました。

YACのリーダーとしては、学校教諭の方から学生、社会人、宇宙の専門家、主婦等、その職業をさまざまな方々がボランティアとして関わってくださっておりますが、最初にリーダーとなられたときは、人により子どもへの接し方等に関しレベルの差があります。分団活動やYAC主催イベントの経験を通し、またリーダーズセミナー等で各個人のレベルの向上及びその差を補ってきておりますが、今までのセミナー等で出された意見から、現行のリーダーのためのガイドブックでは不足している具体的な経験的内容を提供する必要性が高まって参りました。

改訂版では、特に要望の多い「子どもへの接し方」や「プログラム案」を中心に内容を追加し、その後の時間の経過と共に加わった経験も含めました。分団運営や分団結成については分冊化する方向で現在作業中です。必要に応じて今後も改定して参りますので、本書に関するご感想やご意見を賜れば幸いです。また、当ガイドブックは、分団結成、リーダー研修、年度の計画立案の折りにも活用することができますので、活動の節目節目でご確認していただくと更に内容を深めることができますと思います。

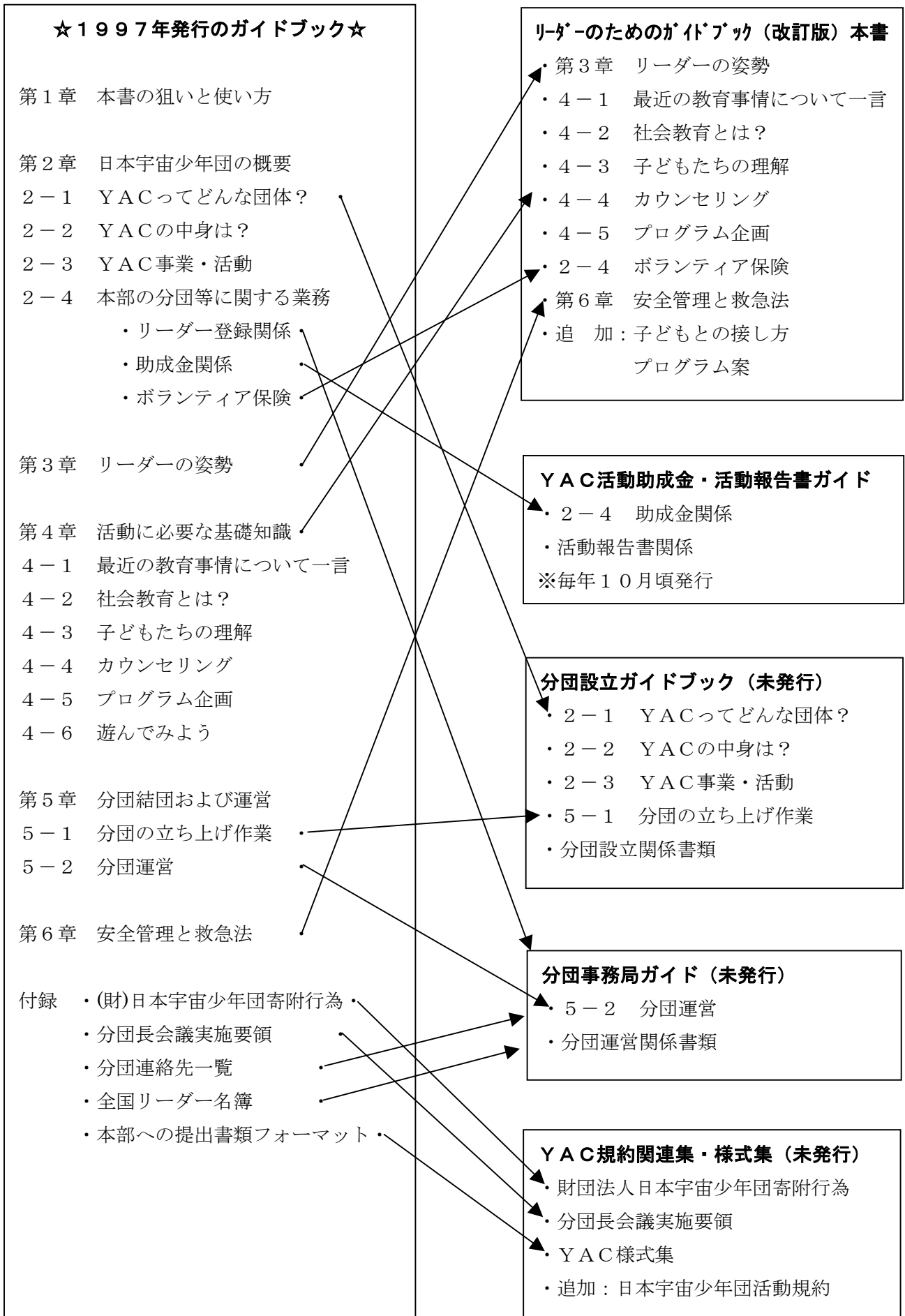
1997年発行の「リーダーのためのガイドブック」は、1995年に組織運営検討委員会のマニュアル作成分科会で当時（30ページ参照）、分団運営をする上でマニュアル関係が整備されていなかった事実を受けて、分団経験のある指導者10名の分団長やリーダー（当時）の方々によって制作され、現在も幅広く活用されております。しかしながら、時代の変遷やリーダーの方々の要望も踏まえ、新たな項目を追加し、また1冊のガイドブックを5冊程度に分冊し、より使いやすいよう改めさせていただきました。YAC本部にも現行のガイドブック（1997年発行分）が保管してありますので、必要に応じてお問い合わせいただければお送りさせていただきます。

分団長・リーダーの方々は分団活動等で子ども達に夢と希望を与えてくださっています。その将来の子ども達を応援してくださる方々に、この改訂されたガイドブックが少しでもお役に立てれば幸いです。

2004年4月

財団法人日本宇宙少年団

# 1997年発行「リーダーのためのガイドブック」と本改訂版の相違部分について



## 目 次

YACの子ども達を取り巻く環境	2
子どもとの接し方	3
子どもとの接し方<事例編>	6
子どもの特性<参考>	8
プログラム案	9
評価とフィードバック	16
安全管理と救急法	17
日本宇宙少年団活動中の保険について	28

### 参考文献：

- リーダーのためのガイドブック（組織運営検討委員会マニュアル作成分科会 1997 年）  
リーダーズセミナーにおける「子どもと関わり自分も育つ」（加藤隆弘 2003 年）  
科学館等における科学技術理解増進活動への参加が参加者に及ぼす影響について  
（文部科学省 科学技術政策研究所 第2 調査研究グループ 2003 年 11 月）  
メジカルフレンド社、コンパクトカードシリーズ：救急看護技術  
メジカルフレンド社、社会部編：看護のための数値表  
日本赤十字社：とっさの手当てがいのちを救う！

# YACの子ども達を取り巻く環境

## 1. YAC団員の傾向

- ・自分から進んで参加する（子どもと宇宙をテーマとしている団体は希少）
- ・宇宙や科学は好きだけれども漠然としている（未知なものへの憧れ）
- ・将来は理系に進む人もいれば文系に進む人もいる（多様な人生を送っている）
- ・人との関わりを楽しんでいる人ほど長く活動する傾向にある

## 2. 分団における集団の特徴

- ・自ら進んで学ぶ意欲があり宇宙の好きな子どもが集まっている
- ・学校の範囲を超えた地域から集っている
- ・異年齢及び異性が複数名集まっている
- ・保護者以外の大人（指導者）と子どもが時間を共有することができる

## 3. 今の子どもをどう捉えるか

基礎学力が低下する傾向にある中、「基礎の基礎」ともいえる、人と関わる力、人の話を聞く力、またそれらを自分の中で消化し、言葉にする力も低下してきています。そのために、思わず自分からやりたくなる状況を引き出す仕組みが必要となります。

活動を通じて「生き生きと輝きだす目」を体験した指導者は、指導者になってよかったと言います。子どもの心に希望の種を植えることこそ、指導者の役割であり醍醐味となります。

## 4. 教育事情について（家庭・学校・地域社会）

### ①保護者による子どもの思考の先取り

幼児期より保護者が察して、子どもが考える機会を奪ってしまうために、指示待ち人間に育ってしまいます。

### ②情報の氾濫

成長過程に於いて常に手の届く範囲に何らかの情報があり、無からの発想ができないことが多いものです。

### ③精神と時間の両面での余裕のなさ

問題に対し解答を考えるための思考過程を惜しみ、発想の貧弱化や、社会に対し無関心な人間の増加が目立ちます。人への思いやりの欠如や社会への不適應等の問題に発展していることが多いです。

### ④過保護に育てられている

保護者の言う通りの「よい子」が増加しています。ささいな事では注意されないなど、外部との摩擦や挫折、疑問を経験する場が極端に不足しています。

# 子どもとの接し方

## (1) あいさつは人間教育の第一歩（自分の性格を前に出し楽しさをアピール）

「こんにちは！」というさわやかな挨拶は、YACのみならず、人間として全ての場において重要な要素です。常にあいさつをする習慣が友情やルールを生み出しますので、節目・節目での挨拶を励行することをお勧めします。また、最初は人見知りする子どもでも、根気強く声をかけることで自然と挨拶ができるようになります。終了時も同様に全員で挨拶を交わすことが重要です。

また、指導者の心構えとして、自分に自信を持って子どもと接することや、指導者の見せる「ホンモノは楽しいぞ！」という姿は子ども達を巻き込んでいきます。

## (2) 今日の活動目的と目標は何？（ケジメある始まりと終わりを）

活動が始まる時に、今日はいったい何をするのか、指導者と団員でよく確認してください。せっかく時間をかけて準備をしてきても、ダラダラ時間をかけたり、会場内がバラバラな行動をしている場合は、せっかく立てた目標をクリアできずに終わってしまいます。誰が、何をやり、その目的と、参加者の目標は何か、時間はどの程度かけるのか、注意事項等を的確に話しましょう。

また、終わりのときには、今日の目標を達成できたかどうか、指導者と団員の間で確認できる場を持ってください。発表やアンケート記入等、指導者の間で話し合っていて決めてください。なるべく短時間で終わり、余韻を残す程度で解散すると、次回への意欲を損なわずに子どものその日の印象を指導者が把握し、次回につなげることができます。

## (3) けじめについて（子どもの心への問いかけを忘れずに）

活動において必要に応じ、ルールを守らない子どもがいるときは注意をしましょう。考えられる場面として安全に関わること、相手を心身ともに傷つける可能性がある場合、周囲への迷惑行動をしたとき等、これは状況判断によります。怒鳴る必要はありません。なぜ、その子どもがその様な行動をしたのか話を聞くことが重要です。今は何をすべき時なのか、相手の気持ちは考えているのかを問いかけてください。注意するときは真剣に、一緒に遊ぶときは思いっきり楽しんでください。

## (4) 子どもの信頼獲得のためにも注意することの重要性

「注意する」とことと「叱る」とことは違います。相手の成長を願う真心の励ましが真実の指導で、その一つの発露として、墮落のほうへ進まないように慈愛を持って「注意する」とことは必要なことです。しっかり注意する指導者は「しっかり見てくれている」という安心感や信頼感につながります。「悪いことは悪い」と言ってくれる方が、注意をしない仲良し指導者より最終的には信頼してもらえるものです。

また、注意する基準がぶれてしまうと、子どもは混乱して指導者の注意を聞かなくなってきました。その基準は指導者の間でも言えることなので、活動において今は何をすべき時なのか、この指導者はA、あの指導者はBとならないように、事前の話し合いで意志統一をすることは重要なことです。

## **(5) 感情だけの判断は禁物**

人は感情の動物です。そのために感情を調節できる知性と教養が指導者には必要になります。ゆえに感情に左右されたり、感情で人と接したりしては、深い正確な判断ができません。子どもを無視しないで、ちょっとしたことでも、ありのままに話をしてください。一人の大人に対するかのように。その時はわからなくても、いつか芽を吹いてくるものです。感情的な「叱り」は禁物です。

## **(6) 不思議だなと思える時間を大切に（教えすぎは禁物）**

指導者が「あれも、これも、教えたい。時間を越えても教えたい。終わっても教え足りない。」この衝動にかられることがあります。これは自己満足にしかすぎず、子どもに伝わるものも伝わりません。ただでも自分から考える場の少ない子ども達です。ぜひ、活動の場では「不思議だな？」と考える時間を重要にしてください。

子どもは大人が思う以上に失敗を恐れ、回答をすぐに求める傾向がありますが、そこはグッとこらえて考えさせてください。回答を自分で導き出したときの感動が子どもの力になり、その積み重ねが本人の財産になっていきます。指導者が手を出しすぎると、それは本人の貴重な学びの場を奪うことにつながります。

## **(7) 失敗は成功へのステップ**

「失敗を恐れずに挑戦する気持ち」を大切にしてください。安全も大切ですが、指導者が考える許容範囲内であれば失敗をして、そこから立ち直る場を持たせ、成功体験をつかませてあげてください。子どもの自信につながります。失敗を恐れないうちの大切さを教えてくれる場は少ないものです。YACはその貴重な場でもあります。子どもがどのような失敗を犯しても「君はやればかならできるはずだ」と励まし、奮起を期待してください。「誠実」にこそ価値ある人生の骨格となります。

## **(8) 子ども同士の比較は禁物（個性を尊重してください）**

子どもは敏感です。別の子と比べて話をするのはマイナス効果です。YACは、子どもの「成長したい」という気持ちを大事にする場であり、優劣で判断するところではありません。桜は桜、梅は梅です。その子らしく伸びていけるように、慈愛の太陽の光を注いでいきたいものです。一番になることだけが素晴らしいことではなく、その人の個性を伸ばすこと（オリジナリティ）を尊重してください。

## **(9) ほめて長所を伸ばそう（励ましが何よりの薬）**

「ほめて長所を伸ばすこと。」「克服すべき欠点を自覚させること。」の両方が、バランスよくかみ合っこそ、一人一人の能力を最大限に引き出すことが出来ます。ポイントは「結果」をほめるのではなく「過程の行動」をほめることです。「いいこと」があれば、心の底からほめてあげてください。「自信」を持てば、その人の可能性はいくらでも引き出されていきます。その時に大切なのは、「励まし」です。暖かい「励まし」が何よりの「薬」です。安心と勇気、希望と自信を与えていくことです。心が通えば「力」に変わります。「力」を出せば必ず「道」は開けてくるものです。また、人を励ますことは、自分自身をも勇気づけられることにつながります。常に良い部分を見つようとす心がけが、いざという時の言葉につながります。

## **(10) 活動における子どもと保護者の距離感**

活動の方法によっては、子どもと保護者が一緒に行う場合があります。この場合の問題点として、保護者が必要以上に手を出してしまい、子どもの活動ではなく大人の活動になることがあります。これは工作のときに良く見受けられますが、プラス効果の事例としては「親子の話題が家庭で増えた。」ということがありました。

また、逆に保護者が活動に入らない場合には、低学年の子どもが工作等で戸惑う場合もありますが、プラス効果として「子ども同士の助け合いが生まれる。」という面が期待できます。ケースバイケースで、ある事例として「子ども、保護者ともに教材を渡し、平行して工作する。」という方法もありました。保護者の行動（活動）も考慮して事前に指導者間で話し合い、決めておくと混乱が避けられます。

## **(11) 事前準備が当日の余裕を生む**

事前の打ち合わせが当日の8割の成功を生み出します。当日の時間通りの進行や宿泊活動等におけるアクシデントに対応するためにも事前打ち合わせが必要です。そのためにも事前に1度は当日出席する指導者が打ち合わせをする場を持ちたいものです。時間の都合が付かなくて欠席を余儀なくされる指導者には、担当者が責任を持って伝達するようにしてください。また、そのことが安全管理につながります。

なお、経験の浅い指導者が入る場合には、その役割を明確化し、経験のある指導者がフォローをする体制を組むことで、安心して参加でき、かつ指導者育成にもつながります。

## **(12) 常に安全には配慮を（安全をどこまで確保するか）**

指導者を常に悩ませるのが安全管理です。大事な子どもを保護者から預かるために、「怪我をさせたくない。」ということが無意識に働いてしまいます。種々の場でこの話題がでます。命に関わることや大きな怪我、衛生管理、送迎等の事故などには十分に気を付けることが必要です。危機管理とともにボランティア保険(日帰り)や旅行保険(宿泊)をかけることも重要です。本部では日帰り活動のみに指導者と団員を対象に傷害保険を掛けています(28ページ参照)。

それでも、カッターで手を少しくらい切る程度(バンドエイドを貼る程度)は教育上プラスではないかという意見もあります。しかし、これは指導者間で話し合っ、意志統一をしておく重要な問題ですので、年度の節目節目で確認してください。

指導者の範囲で出きる安全管理には、危険予知やCPR(心肺蘇生法)を含めた救護のトレーニング方法を受講したり、活動場所の近くにある救急病院を把握し、緊急時の連絡網を作成しておくことなどがあります。

また、スタッフが行う安全管理の他に、子どもへの安全教育も大事なポイントです。「自分の身は自分で守る。」参加者自身で危険を予知する能力、危険が現れたときにそれを回避できる能力を高めることでリスクを減少させることが可能になります。このガイドブックでは、17ページ以降に安全管理に関する事項をまとめていますので、ぜひ参考にしてください。



## 子どもとの接し方（事例編）

ここでは、東京で開催されたYAC本部主催のスペースフレンズにおけるボランティアリーダー（参加者の生活面を中心にお世話をする）の方々の体験事例です。

この行事は団員や一般の参加者が2泊3日で小学校4年生以上250名が参加し、工作のワークショップやバス旅行などを行ったものです。子どもとの接し方について経験の浅い方、経験豊富な方の両者の意見が入ったものですが、経験の浅い方は最初はどう接していいのか戸惑っていました。分団活動においても同様のことが言えると思いますので、参考となる10の事例を紹介致します。このときは15～20名で1班で行動をしました。

### （1）子どもとの最初の接し方について（初めて顔をあわせるとき）

自分の呼び名を始めに子どもたちに伝えてください。同時に、子どもの名前を覚えることが重要です。IDカードを活用してください。特に、ニックネームは覚えやすいし仲良くなれます。小さなことでも常に声をかけて、挨拶をすることです。子どもからは何か返ってくるので、コミュニケーションが広がります。先入観にとらわれず、一人一人をしっかりと見ることが大切です。

### （2）注意の仕方がわからない（リーダーは子どもの遊び相手ではなく指導者）

“注意する”と“そうではない”時の区別をリーダー自身がきっちりつけてください。注意するときは注意し、すぐ普段のリーダーに戻ると、子ども達も安心します。このとき、注意するときは、ただ怒鳴るのではなく、落ち着いて話しをします。また、まず子どもが話しを聞ける体制にしてから話をしてください。注意した後は、ひきずらないことがポイントです。

### （3）個人行動をする子どもに対して（子どもの気持ちを汲み取る作業を）

その行動を起こすことには何か理由があります。「なぜ？」とその理由を最初に尋ね、「それによって周りの子はどういう気持ちになるの？」「自分がされたらどう思う？」などと、ゆっくり話して自分自身で考えて消化できるように導き、子ども自身が理解できるようにしてください。また、思い切って班内にまかせてみると、班長や班長以外の子どもが見てくれるときもあります。動きの止まらない子どもに対しては座らせてみるのもひとつの方法です。

### （4）就寝時間が過ぎても遊んでいる（宿泊行事ではお決まりのトラブル）

例えば、見回りをしていてトランプをしていたら「もう1ゲームだけね」と言ってみてください。すぐに叱り、電気を消して反抗的にするよりは、お互いにいいでしょう。

場合によっては事前に1日の出来事をふりかえり、心を落ち着かせてください。少しづつ暗くしながら話すのも一つの方法です。心が盛り上がってしまうとなかなか寝付けないものです。

### （5）子どもたちに甘いリーダーと思われる（リーダーは毅然とした態度で）

注意しても言うことを聞かないことがあります。リーダーと子どもの最初の関わり方で、子どもがリーダーに対して「ここまでなら許されるだろう。」と判断したものを、後々

改善させることはとても難しく、最初の関わり方はとても重要です。褒めるときは褒め、注意する時は注意して下さい。だめな時はだめとはっきり理由を説明し、納得させます。

自分の中に一線をきちんと引いてください。決して、友達感覚の付き合いに終始しないことです。子どもに嫌われることを恐れる、または保護者の手前、注意できない時がありますが、毅然とした態度は一貫することが重要です。

#### **(6) 自分の班の子どもを見きれないとき（手に負えない子どもがいるとき）**

他のリーダーに相談して助けてもらいましょう。また、事前に助けてもらおうリーダーを決めておくと、心の準備ができて慌てなくて済みます。

#### **(7) 子どもに対する基本姿勢（子どもと同じ高さの目線で話す）**

子どもに考えさせることを優先してください。子どもから何かを頼まれても自分で考えさせたり、自分で行動させたりすると、意外と子どもは進んででき、結果として“自分で出来る”という自信が持てます。かといって、ただ子どもにさせるのではなく、「しっかりフォローしているよ」という姿勢も示します。子どもの目線の高さにあわせて話してください。なぜ注意するなのか、どこまで認めるのかを自分の中で持つことも重要です。とにかく、プラス思考で！

#### **(8) 食べるのが遅い**

全員を待たせるか、ある程度で切り上げるか、各自で解散させるか。子どもの自主性を重んじるのであれば、出来る限りは待つ方がいいのではないのでしょうか。

#### **(9) きちんと答えられない質問に対して（質問には誠実な対応を）**

その場でのあいまいな返事はしないでください。自分、子ども、外部の人達の不正確、不足な情報、あるいは不用意な一言が、一歩間違えるとリーダーの立場を危うくします。特に一期一会の場合、失った信頼はよほどのことがない限り取り戻せないのです。きちんと筋を通してコミュニケーションをとります。信頼関係にもかかわるので、約束したことはきちんと守りましょう。判断の難しいことは、統括のリーダーか他のリーダーに相談してください。

#### **(10) 不十分なことをしてしまったとき（あやまる勇気を持とう）**

「～に関しては申し訳なく思ってる。」「これからはもっとよくしたい。みんなも失敗して学ぶことはある。」等、言い分けでなく話してみると、子どもたちは案外素直に納得します。下手に大人のプライドを前に出すと子どもは反発します。

※（全体的に）経験を積んだリーダーは頼りになるので相談するようにします。「こんなこと聞いたら、リーダーなのに恥ずかしいのでは。」などと恥ずかしがらずに、子どもたちの行動にかかわることは何でも相談しましょう。誰でも持っている目標は、「子ども達が楽しめるように。」であり、それを達成するためにもリーダー同士のコミュニケーションは欠かせないものです。良い体験談（成功や失敗事例）や対処法を聞け、自分自身も成長することができます。また、リーダー同士が仲良さそうに話していると、子どもは必ず寄って来ます。ただし、リーダー同士の馴れ合いにはならないよう注意が必要です。

## 子どもの特性（参考）

### ●発達段階による子どもの特性

子どもは心身ともに急速な変化、成長を体験する中で、常に精神的な緊張や圧迫が付きまといます。これにどう対処していくかが将来社会人として成長する鍵になって行きます。ここでは、子どもの年齢的な特徴について理解について深めたいと思います。

学年	特 徴	役 割
小学1～ 2年生	①じっとしていず、たえず動きたい。 ②すぐ疲れるが休息しない。 ③自己主張をしたい。 ④いたづらをしたい。 ⑤目立ったことをして自己の存在を示したい。	
小学3～ 6年生	①社会的行動が活発化し、友人を重視して仲間関係を築くことができる。 ②人に認められたいという意識が芽生え、所属への欲求が拡大する。 ③言葉を思考の道具として使えるようになり、意思や行動を自己調整し、自分を成長、発展させることができる。 ④理解力や想像力は、特に10歳くらい迄が大きい。	①仲間内でリーダーシップがとれ、グループをまとめられる。 ②従うことができる。 ③仲間同士で協調し合うことができる。 ④指導者が常に子どもと行動を共にする必要がある。
中学1～ 高校年生	①自分の存在価値に疑問を持ち、自我の発達を追い求める。 ②親からの離脱。(第二次反抗期) ③外界からの刺激に関する反発や別の世界への憧れ。 ④異性を意識。 ⑤身体的にも第二次成長期、心身共に不安定な時期。	①自発活動ができる。 ②年長者が仲間に指導できる。 ③小学生の指導ができる。 ⑤高校生でも指導者は必要。



# プログラム案

## 1. YACにおけるプログラムの考え方

人間は、自分の住む地域社会、日本、地球、太陽系、そして宇宙全体の中で生活をしています。大きな宇宙観にもとづいて生活する人が少ない中で、少しでも自分が宇宙の一部で、多くの人々に支えられて生きていることに気が付き、生活の中に宇宙・科学・生命という視点を取り入れて人生を生きる上で役に立てるようになればと考えます。その切り口をYACでは宇宙・科学を軸にしています。子どもが将来、幸福で自分自身の使命を自覚して人生を送ることができるように手助けをするもので、宇宙科学者や宇宙技術者を育成することだけが目標ではありません。その子どもの将来目標がはっきりしていない場合は、「何かをやる」「何かを始める」努力を重ねていくうちに見えて来るものです。何か1つ自分の好きな分野、興味を持てるものを伸ばすのも大切で、何か誇りの持てるもの、挑戦できるものを持ってもらうことが重要です。

## 2. 活動目標例

- ・宇宙・科学技術・自然環境・生命を軸とした体験活動
- ・異年齢のグループ活動により他者への思いやりをだいじにして協調性を育む活動
- ・自ら考え創意工夫による物作り活動
- ・不思議と思うことをだいじにする活動

## 3. 活動の概要

YAC 宇宙	宇宙	宇宙を身近に感じる（宇宙と自分に関係あることを認識する）
	科学技術	物作りを体験する 科学によって見えないものを観ることができる実体験（科学実験）
	自然環境	自然に親しむ（地球・自然と自分が一体であることを感じさせる） 地球の環境の現状を認識し自分なりの環境への行動をする
	生命	命の大切さを学ぶ 友情を育む 感謝の心を育む

人間は一人では生き続けることができるのでしょうか？人間は自然、地球、宇宙とどのような関わりがあるのでしょうか？

「我々はどこから来て、我々は何者で、我々はどこへ行くのだろうか？」（ポール・コギャン）

大きな宇宙観に立つことにより、人間がともに共存する関係であり、宇宙や自然、地球や多くの人々に助けられて生きている素晴らしい存在であることに気が付きます。第1に自分のその「すごさ」と「尊さ」を宇宙・科学の切り口で探ります。第2に多くの体験を通じ、自己の個性を伸ばし、その子どもの興味を更に成長できるように促します。

なるべく子ども達の意見を取り入れ、高校生がいる場合はサブリーダーとしてリーダーと子どもの中間を取り持つ補佐役や企画の一部をまかせ、それをリーダーがサポートする仕掛けを順次取り入れて行くことで、お互いの成長につながって行きます。

#### 4. プログラム立案

前述のような考え方も含めて、分野別に活動例をまとめてみました。これ以外にも多数考えられますので、組み立ての参考としてください。

分野	テーマ
宇宙科学	宇宙・星座学習、天体観測会、星座絵作り、太陽系旅行ゲーム 星座早見盤工作、天体望遠鏡工作、宇宙食試食・作り、宇宙の歴史の勉強
科学技術	ロケット(水ロケット、モデルロケット、アルコールロケット等)工作、凧揚げ(工作)、紙飛行機、 ペーパークラフト、身近な工場施設見学、ラジオ工作、ピンホールカメラ工作、ホバークラフト工作、 パソコン学習、科学実験
自然	自然観察、リサイクル実験・工作、化石発掘、地質観察、地球の歴史の勉強、 農作物の栽培
生命	宇宙の歴史の勉強、読み聞かせ、ボランティア活動
分団行事	キャンプ、レクレーション、クリスマスパーティ、プログラムミーティング、カク大会、運動会、史跡探歩 絵画・作文コンクールに挑戦、映画鑑賞会、地元のお祭参加、他団体との交流会

#### 5. 年間プログラム例

##### 年間計画のヒント(その1) バリエーションのある活動

月	分野	キーワード	目標	活動概要
4	分団行事	レクレーション	挨拶ができるようになり、友達の名前を覚える。	リーダーによるレクレーションや班分けをする。
5	宇宙科学	宇宙・星座学習	宇宙に親しむ。	宇宙についてのクイズやゲームで班対抗の大会をする。
6	科学技術	水ロケット工作会	物作りを体験する。	創意工夫で失敗を繰り返しながらロケットを遠くへ飛ばす班対抗の大会。
7	自然	自然観察	地域の自然に親しむ。	ネイチャーゲーム 草木・昆虫等の観察
8	宇宙科学 自然	キャンプ	宇宙と自分の関わりを実感し友情を育む。	天体観察、自然観察 宿泊キャンプ
9	生命	読み聞かせ	命の大切さを読書を通じて学ぶ。	指導者の読み聞かせ 団員の読み聞かせ
10	生命	ボランティア活動	人との関わりから感謝の心を育む。	施設慰問 清掃活動等
11	宇宙科学	天体観測会	宇宙に親しみ、ETについて考える。	秋の星座と流星群観察
12	分団行事	クリスマスパーティ	友情を育む。	団員によるゲーム等
1	科学・技術	凧揚げ(工作)	日本の遊びと技術に親しむ。	凧工作と凧揚げ大会
2	科学・技術	身近な工場見学	地域の技術に親しむ。	工場・研究室の見学
3	分団行事	プログラムミーティング	団員の意見から次年度プログラムを計画する	表彰式(皆勤賞等) 年度計画を考える

## 年間計画のヒント（その2）：宇宙の歴史・天体観測を中心とした組み立て

月	分野	キーワード	内 容
4	自然	観察・地質	ミニハイキングで地球の歴史を探ろう
5	宇宙科学	宇宙・歴史	宇宙と地球の歴史を学ぼう
6	生命	工作・土器	土器工作から古代の生活にふれよう
7	分団行事	キャンプ・化石	野尻湖でキャンプ（ナウマンゾウ博物館見学等）
8	宇宙科学	見学	JAXA宇宙科学研究本部一般公開見学
9	宇宙科学	学習・太陽系	太陽系旅行ゲーム（グランドで太陽系を再現）
10	宇宙科学	天体観測	秋の星座観望会と星座絵工作
11	自然	観察・地質	秋の森を感じよう（ハイキング、地面の観察）
12	分団行事	忘年会・そば	そば打ち体験
1	分団行事	新年会・カルタ	新年会（宇宙カルタ大会）
2	宇宙	天体観測	冬の星座観望会と手作り工作会
3	分団行事	次年度プログラム	次年度プログラムミーティング（団員）／保護者会

## 年間活動計画のヒント（その3）：「飛ぶ」をキーワードに組み立て

4	科学技術	見学・航空	JAXA航空宇宙技術研究本部の見学
5	科学技術	工作・航空	紙飛行機工作・飛行大会
6	科学技術	自然・工作	自然界の飛ぶもの工作
7	科学技術	生命・読書	星の王子様読み聞かせ、読后感想の絵を描く
8	分団行事	キャンプ	キャンプ（自然観察・トンボや蝶等）
9	科学技術	宇宙科学	太陽系旅行ゲーム
10	科学技術	工作・太陽	太陽風における帆船工作
11	科学技術	見学・航空	航空際見学
12	分団行事	クリスマス	クリスマスイベント（お話：地球と宇宙）
1	科学技術	工作・凧	手作り凧工作と凧上げ
2	科学技術	工作・熱気球	熱気球工作・熱気球上げ
3	分団行事	次年度プログラム	次年度プログラムミーティング（団員）／保護者会

## 年間活動計画のヒント（その4）：「ロケット」をキーワードに組み立て

4	分団行事	レクレーション	宇宙・ロケットクイズ大会
5	科学技術	工作・水ロケット	水ロケット工作・打上げ（工作・試行錯誤実験）
6	科学技術	工作・水ロケット	水ロケット工作・打上げ（修正・打上げ）
7	科学技術	工作・水ロケット	カメラ付き水ロケット工作
8	分団行事	キャンプ	宇宙センター見学等
9	科学技術	実験	ロケット飛行原理実験
10	科学技術	工作・モデルロケット	モデルロケット工作
11	科学技術	工作・モデルロケット	モデルロケット工作・打上げ
12	分団行事	クリスマス	クリスマスイベント
1	宇宙科学	勉強会	宇宙の歴史と宇宙開発
2	科学技術	工作	隣の星へ行く宇宙船を考えよう（設計・工作）
3	分団行事	次年度プログラム	次年度プログラムミーティング（団員）／保護者会

### 年間計画のヒント（その5）：サブリーダーを中心とした組み立て

月	分野	キーワード	内 容
4	分団行事	レクリエーション	サブリーダーによる宇宙クイズ大会
5	休み		サブリーダー以上による企画会（工作会）
6	科学技術	工作	サブリーダーによる工作会
7	休み	企画会	サブリーダー以上による企画会（デイキャンプ）
8	分団行事	キャンプ	サブリーダー企画のデイキャンプ
9	宇宙科学	見学	天文台見学
10	宇宙科学	天体観測	サブリーダー講師の秋の星座観望会と星座絵工作
11	休み	企画会	サブリーダー以上による企画会（クリスマス・新年会）
12	分団行事	クリスマス	サブリーダー企画のクリスマス会
1	分団行事	新年会	サブリーダー企画の新年会
2	宇宙	天体観測	サブリーダー講師の冬の星座観望会と手作り工作会
3	分団行事	次年度プログラム	次年度プログラムミーティング（団員）／保護者会

### 年間活動計画のヒント（その6）：「ボランティア活動」をキーワードに組み立て

4	自然	環境	「地球にやさしいこと」提案と年間実行計画
5	分団行事	ボランティア	街頭清掃など
6	科学技術	工作	廃品利用のおもち工作
7	分団行事	工作	星座のお話と老人会の人へ星座絵のお土産工作
8	分団行事	ボランティア	地域の老人会の人たちとともにバーベキュー大会
9	宇宙科学	学習	太陽系旅行ゲーム・太陽系の学習
10	生命	宇宙科学	宇宙誕生から僕達の誕生まで（勉強会）
11	生命	読書・平和	読み聞かせを通じて平和について考える（勉強会）
12	分団行事	ボランティア	歳末街頭募金活動
1	分団行事	新年会	中学生以上の企画によるレクリエーションゲーム・募金結果
2	生命	環境	「地球にやさしいこと」実行結果発表会と表彰
3	分団行事	次年度プログラム	次年度プログラムミーティング（団員）／保護者会

### 年間活動計画のヒント（その7：指導者不足で毎月の活動ができない場合）

4		分団行事	中学生以上の企画によるレクリエーションゲーム
5	休み		
6		宇宙科学	ギリシャ神話と星座（星座絵を作ろう）
7	休み		
8		分団行事	キャンプ（天体観測会、自然観察）
9	休み		
10		科学技術・クワット	水ロケット工作・打上げ
11		宇宙科学・見学	天文台見学
12		分団行事	中学生以上の企画によるクリスマスイベント
1		分団行事	宇宙カルタ大会
2	休み		
3		分団行事	次年度プログラムミーティング（団員）／保護者会

### 年間計画のヒント（その8：分団活動事例1）

月	分野	キーワード	内 容
4	科学技術	工作・飛行	紙飛行機を作ろう
5	科学技術	工作・飛行	熱気球を作ろう
6	科学技術	工作	ジャイロカーを作ろう
7	科学技術	見学	施設見学
8	科学技術	工作・飛行	模型飛行機を作ろう
9	自然	観察	「子ども宇宙体験事業」川の自然探検隊
10	科学技術	工作・歴史	石器を作ろう
11	科学技術	工作・歴史	青銅鏡を作ろう
12	分団行事	クリスマス	クリスマス例会
1	科学技術	勉強・通信	通信を学ぼう
2	自然	工作・雪	雪の結晶のレプリカを作ろう
3	科学技術	工作・ロケット	紙コップロケットを作ろう

### 年間活動計画のヒント（その9：分団活動事例2）

4	分団行事		開校式
5	科学技術	工作・ロケット	水ロケットに挑戦
6	科学技術	工作・ラジオ	宇宙の声を聴こう～鉱石ラジオの製作～
7	科学技術	工作	君も宇宙建築家
8	宇宙科学	天体観測	宇宙をみよう～夏の星座と天体観測～
9	分団行事	宿泊・バス旅行	スペースキャンプ in つくば&ふくしま
10	宇宙科学	天体観測	月にウサギはいるか！？～月面観測～
11	科学技術	観察・顕微鏡	ぼくらはミクロ探検隊～顕微鏡を使った観察～
12	科学技術	科学実験	エンドー博士のおもしろ実験～楽しい科学実験～
1	科学技術	見学	君もきょうだけ山形大生～サイエンスセミナー～
2	分団行事		閉校式
3	休み		





### 年間計画のヒント（その10：分団活動事例3）

月	分野	キーワード	内 容
4	科学技術	工作	モーターの原理と製作
5	科学技術	工作	日時計の製作
6	自然	観察	地元の自然観察
7	科学技術	工作	水ロケット工作・打上げ
8	自然	化石	化石の勉強と採取
9	分団行事	キャンプ	コスモワールド見学とキャンプ
10	科学技術	工作	凧工作と凧上げ
11	科学技術	工作	クリスマスツリーの製作
12	科学技術	工作	電子工作
1	生命	学習・人体	人体の不思議
2	科学技術	工作・飛行	紙飛行機の製作
3	科学技術	工作・飛行	ソーラーバルーンの製作



### 年間活動計画のヒント（その11：分団活動例4）

4	宇宙科学	天体観測	惑星観測会
5	分団行事	工作・ロケット	地元行事参加（アルコールロケット出展）
6	自然	観察	川の観察会（上流）～指令 2002 川・川・川～
7	科学技術	工作・ロケット	水ロケット工作・打ち上げ
8	自然	観察	川の観察会（中流）～指令 2002 川・川・川～
9	科学技術	工作・飛行	紙製の熱気球工作
10	自然	観察	川の観察会（中流）～指令 2002 川・川・川～
11	分団行事	見学	地元の文化祭見学
12	宇宙科学	天体観測	土星観測会
1	科学技術	工作	科学工作教室
2	宇宙科学	天体観測	冬の星座 ～天体観測会～
3	分団行事	次年度プログラム	まとめ（反省会と企画会）

### 年間計画のヒント（その11：分団活動事例5）

月	分野	キーワード	内 容
4	科学技術	見学	日本最大級の風力発電所をみよう
5	宇宙科学	工作・天体	望遠鏡を作ろう
6	科学技術	工作・ロケット	オリジナル水ロケットを作ろう
7	科学技術	工作・ロケット	水ロケット打上げ大会
8	分団行事	キャンプ	他分団との合同キャンプ
9	科学技術	見学	原子力発電所の見学
10	科学技術	工作・飛行	空力翼艇を作ろう
11	科学技術	見学	地元のサイエンスセミナーに参加
12	分団行事	クリスマス	クリスマス会&ボーリング大会
1	科学技術	工作・飛行	凧工作・凧上げ
2	科学技術	工作・ロケット	アルコールロケット工作・打上げ
3	科学技術	工作・人工衛星	人工衛星模型を作ろう



### 年間活動計画のヒント（その12：分団活動例6）

4	分団行事	キャンプ	スプリングキャンプ・1年間の研究テーマ決定
5	自然	観察	自然を学ぼう（マングローブ観察・ゴミ拾い）
6	科学技術	工作	おもしろ科学実験（割れないシャボン玉等）
7	分団行事	キャンプ準備	サマーキャンプ i n 屋久島（準備会）
8	分団行事	キャンプ	サマーキャンプ i n 屋久島（自然観察）
9	科学技術	工作・ロケット	水ロケット工作・打上げ
10	宇宙科学	ウォークラリー	宇宙・ウォークラリー
11	分団行事	見学・体験	種子島を発掘しよう（古代遺跡・文化財）
12	分団行事	交流	支部交流会 i n 中種子町（紙飛行機大会）
1	分団行事	リーダー研修	九州地区リーダーズセミナー開催
2	科学技術	学習・班活動	班ごとの研究（学習）
3	分団行事	活動発表	班別活動の発表会、学習認定証及び皆勤賞授与式

## 評価とフィードバック

プログラム実行時に、私たちは子ども達をつい一つの集団として見てしまうことがあります。それにより、プログラム進行の過程で常に一方向となることが多くなりがちです。

もし、活動でやらせる、与える、見せるといった指導になれば、まとまりよく見えても、個人の意欲を抑制し、結果として集団としてのまとまりは失われます。子ども達が自らの主体性で仲間と関わり活動をした結果、集団としてまとまることが大切です。

### (1) 団員のニーズの把握

団員が何を求めて分団に所属したか、何に興味を持ち、やりたいのかを知る。決して個々の団員が主体であることを忘れないでください。

ニーズの収集方法として、アンケートや分団活動参加後の感想発表、計画立案の段階で団員（あるいはサブリーダー）を参加させて、生の声を聴く。

### (2) 毎回の活動における事後評価とフィードバック

子ども、指導者双方にとって何を求めるためにその活動が必要か、目的・目標を明らかにして分団活動を行います。活動を行った直後には子どもにアンケートを記入してもらうか、何人かの子どもに発表をしてもらう、あるいは事後に数人から感想を個人的に聴くなど団員の反応を把握してください。

また、できうる限り、終了後に評価会を行って、企画の目的・目標が達成されたか、個々の団員の反応はどうだったか等、指導者間において情報を共有し、次回以降に、その子どもに接する上での情報源とします。運営についても評価を行い次回以降、特に次年度の参考になりますので、短時間で終了することを心がけながら工夫をして事後評価を行ってください。ポイントは、

- ①準備及びプログラムは過不足なくできたか（ケジメある運営・行動ができたか）。
- ②子どもと指導者の目的・目標は達成できたか。
- ③指導者は子どもの意欲を引き出し自主的に行動するように促すことができたか。
- ④指導者は子どもを集団ではなく個人として接することができたか。
- ⑤子どもへの問いかけはどのくらいできたか。
- ⑥注意すべきところで注意できたか。また、その方法は。
- ⑦安全管理はできたか
- ⑧その他、評価すべき事項

最後に、必ず本部へ活動報告書をFAX、Eメール、郵送のいずれかで所定の書式で送ってくださいようお願いします。ホームページへ実施報告を掲載し、他の分団の活動の参考とさせていただきます。また、少人数の分団の場合は団員個々の記録ノートを付けることも一案と思いますが、指導者の負担にならない範囲で実施すると、引継ぎのときにスムーズに情報を共有することができます。

### (3) 年間を通じての評価とフィードバック

年度の終わりや節目節目に団員のニーズを聴きなおし、年間計画に反映することをお勧めします。そのための活動を年に1回行うことも考えられます。時期は3月か助成金のタイミングを考慮して10～11月頃に行うことも一案です。

# 安全管理と救急法

## 1. 安全管理

安全な活動のためには構想段階から事故に対する「防止策」と事故発生時の「対処法」が必要です。しかし、大人と子どもに共通の危険に関しては案外気づけますが、子どもに限っての危険を考えるのは意外と難しいものです。指導者がどれだけ子どもの特徴や興味を理解し、子どもの視点から物事や背景、要因を考えることができるかが大切な問題となるのです。事故と言っても必ずしも原因と結果が一对一で結び付くとは限りません。例えば一つの事故に対する対応のまずさが二次的な事故を招いたり、複数の原因があったりして初めて一つの事故が誘発される場合もあります。危険から子どもたちを守るために指導者はまず何をすべきか考えたいと思います。

## 2. 事故（危険）防止対策

事故を防止する為にはただ「漫然とした危険」に脅えるのではなくあらゆる情報や考え方からできるだけ多くの「具体的な予測事故」をあげて「具体的な事故防止対策」を示す必要があります。そして主催者が誰であろうと今、団員の最も近くにいるあなた自身を団員が頼りにしていることを忘れてはいけないと思います。

### （1）マンウォッチング

各団員の個性の把握もとても大切です。日頃から団員（家族も含む）と係わり観察することで、性格、興味、家族や友だちなどの人間関係、考え方や視点、行動の傾向、体力や健康状態、経験と知識と能力、理解力等が見えてきます。

### （2）団員の目線からみた危険な空間と行為のチェック

大人にとって小川であっても、子どもにとっては足をすくわれる大きな流れかもしれません。刃物を使った実習で子どもが誤ってリーダーの手に傷をつけました。次に指導者の傷の高さと同じ条件で団員が傷を受けた場合、その高さは団員の目の位置でした。このように前者は同じ空間を違う視点から見た時に、後者は同じ空間でリーダーでなく団員がいた時に、大人にとっては思いもつかなかった事故の危険が待ち受けています。それだけに私たちは子どもの目線でどんな場所が危険なのか、個人の観察情報がどう係わって危険なものとするのかを考えなければいけません。

### （3）危険の具体例（集められる限りの情報と想像力を働かせて考えてみましょう）

①紙飛行機大会：作成時にカッターで手を切る。団員がふざけて怪我をする。ボンドのシンナーで具合が悪くなる。目に切りクズやボンドが入る。注意を聞かず狭い室内で飛ばして目等に刺さる。ふざけ合いや喧嘩から物損、怪我。場所を守らず道路や林に飛ばし、危険な場所に足を踏み入れたり、関係者以外の人に迷惑をかける。紙飛行機を人に向かって飛ばし怪我をさせる。慌てて拾い転んで怪我をする等。

②キャンプ：火、刃物、毒虫（すずめ蜂等）、切り株等による怪我。食中毒。体調の調整不足や環境変化による体調不良。迷子。溺れる。夜道、坂道、崖の転倒、転落。移動時の交

通事故や乗り物酔い。喧嘩やそれに伴う事故。蛇に噛まれる。自然災害（雷、大雨、強風、水辺の急な水位変化）。高温、急な冷え込み等による熱射病や風邪、腹痛等。火器の扱い不十分による発火。服装不備による風邪や怪我等。

#### （４）対策の具体化（危険が具体的にイメージ出来たら今度は対策も具体化します）

##### ①紙飛行機

- ・子どもの手に合った鋏を用意させる（たち鋏だと怪我をしやすい）。
- ・刃物の危険性と取扱方の周知（人に向けない、ふざけさせない、正しい使い方等）。
- ・切りクズや物品の扱い方の注意。
- ・飛ばす場所の限定とルール、理由の周知。

##### ②キャンプ

- ・前準備として緊急時の連絡方法、保険証番号、近医、健康状態（チェックリスト等で体調、アレルギー、薬、心配事等）、交通事情、キャンプ地と周辺の環境（設備、安全性、避難場所、電話の有無等）、気象情報等の確認と救急薬品の準備。日頃からの救急法の理解。
- ・事前下見（施設状況、歩行ルートの確認、蛇や蜂等に関する情報収集、川の水位の変化、気象条件の変化を受けやすいか等）。
- ・プログラム内容と危険性に関し十分な情報提供と説明を行う。止むを得ず危険箇所や行為（火や刃物を使う、夜間の星の観測等）が伴う時はポイント毎に指導者を配置。
- ・大きな危険が予想される天候ではプログラムの一部や全体の中止、切替えを行う。
- ・健康状態の把握。
- ・酔いやすい子はバスの席の配慮（酔い止めの服用）。
- ・キャンプファイヤーや炊事後の火の処置の確認。
- ・気象条件に伴う服装のチェックと注意。
- ・残り物や腐敗の可能性のあるもの、また個人的にアレルギーのあるものは与えない。
- ・翌日の体調の為就寝時刻の徹底。

\*団員への告知例：ほんの一例です。安全のために、最も適した対策を考えて下さい。  
「前日はあまり夜更かしをせずに、早めに寝ましょう。」  
「団体行動であることを肝に銘じて、一人で勝手な行動をとらないようにしましょう。」  
「ケガをしたり具合が悪くなったりした場合は、すぐリーダーに報告しましょう。」  
「食中毒の危険性があります。残り物は決して食べないようにしましょう。」  
「キャンプファイヤーやかまどなど、火の扱いには十分注意しましょう。」

#### （５）危険の回避

大人にとって最も楽な危険の防止方法は「危険行為の禁止や危険箇所の立入り禁止」を徹底させ、命令することかもしれません。しかし、考えて下さい。命令される側は、禁止される訳を理解していますか？ 叱られる恐怖心から行わないだけではないですか？ 命令の徹底からその時は事無きを得ても、団員が訳を納得していなければ将来また同じ危険に遭遇する可能性があり、その子にとって本当の意味で危険を回避したとは言えません。団員の命や心を守るために、厳しい態度で注意しなければならないこともあります。

しかし、その時必ず指導者であるあなたの言葉、態度の訳の一つ一つを団員に伝え、団員が全てを納得出来るまで話してください。子どもに対し、自ら反省し同じことを繰り返さないことが、本当の意味での危険回避です。また、小さい子どもに対しても「まだ判らないから」と諦めて放置せず、より判りやすい説明が必要です。指導者によって対応が違って子どもは混乱を起こしたり、指導者を選んで危険行為を行ったりします。危険に対する共通の理解と認識を持つことが重要です。

## **(6) 知識の取得**

事故には複数の原因がある場合と、複数の事故が重なる場合があります。それだけに事故防止から対処迄一貫した態度で臨むことが、リーダーに期待されます。そのためには指導者としての基礎知識の理解、救急法等の専門知識と専門技術の習得が不可欠なものとなります。

## **(7) 自分の限界を知る**

どんなに素晴らしい文献を読んだところで、それに実行能力が伴わない場合、或いは一人の力では対処しきれない場合もあります。そんな時、自分たちだけで頑張ろうとすると二次的な事故を誘発したり、最悪団員が命を失ってしまったりするかもしれません。知識や技術を過信することなく、常に自分の限界を客観的に判断する姿勢を持つことがリーダーには必要であり、最悪の事態を防ぐことができるのです。

## **(8) 保険加入のお勧め**

事故等に備え、ボランティア保険や宿泊を伴うときには旅行保険にも加入しておいた方がよいでしょう。本部が掛けている保険は日帰り活動に限定されており、保障内容も充分なものとはいえません。

種類としては「分団として長期に渡り加入できるもの」「イベントやキャンプ等短期間、個人として加入出来るもの」等があり、補償内容も死亡時、入院、通院、物損等色々な種類が選べます。いずれの場合も保険会社によって値段も条件も違ってきますので、直接問い合わせをして活動に最も適した保険への加入をお勧めします。

# **3. 救急法**

どんなにリーダーが注意して計画を立てても、長年このような活動を行っているところ意外なところで怪我や病的状態に遭遇することがあります。そんな時私たちリーダーが慌ててしまえば団員は更に不安を強めます。また、適切な対応をとれなかったことによりその子の命すら危険な状態にさらすかもしれないということを自覚し、日頃から救急法の研修を受けたり知識を高めたりする努力をして下さい。

## **(1) 救急法とは**

「医師の手に渡す迄の、危険を伴わない手当て」というのが救急法の鉄則です。医師の領域に迄手を出してはいけません。私たちにできる範囲は「止血」「傷の保護」「ショックの防止」の三つの処置であることを確認しておきます。

## (2) 患者が発生したら

- ①情報収集：氏名、意識の有無、患部の場所と症状、全身（精神を含む）状態把握。
- ②患者に不安を与えないために、落ち着いた態度で接し、野次馬等は遠ざけます。  
吐物や出血がある場合は患者の目に触れないよう素早く処理します。

## (3) 応急手当て時の姿勢：原則としては仰向けで枕を外し、水平に寝かせます。

- ①意識がある時は本人に尋ね、最も楽な姿勢をとらせます。
- ②嘔気がある時は顔を横に向け吐いた物で窒息させないようにします。
- ③顔面蒼白時は血圧低下やショック等が考えられるので、足を12～30cm位高くします。
- ④顔面紅潮時は頭部と肩をやや高くし、下半身は水平に寝かせます。
- ⑤腹部に症状がある時は両膝を立てて患部の緊張をほぐします。
- ⑥出血がある場合、患部を心臓より高くします。
- ⑦意識が無く呼吸がある時は吐物等で気道をふさがれることがあります。まず毛布や枕等を抱えさせ横向きに寝かせ、どちらかの腕を肘から曲げて手のひらを下に付けます。その手の甲の上に患者の額を乗せ、うつ伏せにして気道確保をします。

## (4) 簡単な意識の確認方法

- ・ 自発的に開眼しているかを確認します。閉眼していれば①呼び掛けで反応、②痛み刺激で反応、③開眼しない、の順に状態は悪い。
- ・ 言語障害はないか確認。①良好で会話成立、②会話混乱、③言語混乱、④理解不明の発声、⑤発言なし、の順に状態が悪い。
- ・ 運動機能は意志通りに動かせるか、異常な屈曲や伸展反応はないか、無反応状態ではないかを確認します。
- ・ 刺激しても覚醒しない場合は刺激に対し①はらいのける動作をする、②手足を動かしたり顔をしかめたりする、③全く動かない、の順に状態が悪い。

## (5) 簡単な身体状態の把握

①身体状況把握の為の数値（食事、運動後約30分の安静後）

	体温	脈拍（拍／分）	呼吸（回／分）
幼児	37.0 - 37.2 度	110 - 130	30 - 40
学童	36.5 - 37.0 度	80 - 90	17 - 30
成人	36.5 度前後	男 65 - 72 女 70 - 80	16 - 18

②全身の状態の簡単な観察

どんな時も私たちは怪我や病気だけに気を取られるのではなく、それを含んだ一人の人間を見ていることを忘れてはいけません。ですから前述した意識と患部の状態把握の他に全身状態（精神面も含む）の把握もとても大切です。それによって患部の状況がより具体的に見えたり、患部が及ぼす二次的障害の発生や症状悪化を防げたりすることにもなります。観察例として、活気の有無、食欲の有無（食べた物）、睡眠の過不足、便通異常の有無、皮膚の状態（色、発疹、腫れ、浮腫）、体温、呼吸、脈拍、熱感、冷感、震え、めまい、口乾感、倦怠感、嘔気、表情、発汗、神経症状等。

### ③観察ポイントと注意すべき症状（数例について）

脈拍：安静にした状態で1分間計測します。100回以上を頻脈、50 - 60以下を徐脈と言  
い、脈拍リズムのばらつきにも注意します。

呼吸：同様に胸部や腹部の動きで1分間計測をします。速さ、リズム、深さ、呼吸姿勢、  
（喘息発作時上半身を水平に寝かせると苦しがる等）、呼吸方法（胸式か複式呼吸か、  
口呼吸か肩呼吸は見られないか）、呼吸音（ヒューヒュー、ゼロゼロ等）、異物によ  
る呼吸障害はないかなどです。呼吸悪化による皮膚色変化、意識や全身状態の変化  
にも気を配ります。また、呼吸停止状態の時は直ちに気道確保をして人工呼吸をし  
ます。

神経：身体各部の痺れ、麻痺、異常な屈曲や伸展、痙攣、知覚鈍麻、反射低下、呼吸停止  
等の症状の出現に気をつけます。特に重要なのが「目」の症状で、眼球の位置、眼  
振の有無、瞳孔の大きさと左右差、対光反射（ライトを当てて瞳孔縮小の速度を見  
る）等です。

体温：計測時に汗をかいていると数値が低く出るので、きちんと拭き取ります。発熱時に  
は熱感や顔面紅潮を伴うことが多く、逆に発熱の前症状で筋肉が細かく痙攣し体温  
を上げようとするのを悪寒と言います。体温が上がりきるまで、寒気、震え、唇や  
顔色の不良を伴います。

色：顔、唇、爪、指先、その他の皮膚色を観察します。呼吸や循環障害によって皮膚が  
紫っぽくなる場合がありますがこれを「チアノーゼ」と言います。

ショック：恐怖、苦痛、出血、アレルギー等で循環不全を起こし、グッタリと元気  
のない状態になることをショックと言います。手当てが遅れると症状を進行させ、  
最悪死亡することもあるので素早い観察と予防を行います。

下の症状の一つでも当てはまれば既にショックが始まっているかもしれないと考  
えて行動しましょう。症状として皮膚（顔面）蒼白、チアノーゼ、冷汗、不安、無表  
情、無感動、嘔気、気力低下、反射低下、四肢の冷感、体温血圧の低下、微弱頻脈、  
呼吸数増加と浅い呼吸、尿量の減少、意識不明等があります。

対策－水平に寝かせ足を15～30cm程高くする。

－患者の楽な姿勢をとらせる。

－立たせたり歩かせたりしない。

－適当な保温をする。

－出血が原因となっている場合は止血も行う。

## （6）傷病と対処法

<刺し傷、切り傷、すり傷>

出血と感染の危険が伴うため、負傷後はできるだけ早く付着した感染源を取り除き、清  
潔な水またはぬるま湯で洗浄。オキシドールで消毒し滅菌ガーゼ等で傷を保護します。出  
血があれば状況に応じた止血を行い、いずれも必要に応じ医師に相談します。



## ①止血法

直接圧迫法—傷に直接滅菌ガーゼをのせ、直接圧迫止血する。

間接圧迫法—直接圧迫する材料がない時、指圧止血点をおさえ一時的に止血。

止血帯圧迫法—以上の二方法併用でも止まらないひどい出血の時使用する。

—傷の上方で傷に近い場所を5cm程度の止血帯で圧迫。

—止血部分は外から見やすい状態にする。

—止血開始時刻を記入し止血帯に札を付ける。

—出来るだけ早く医師に見せる。

—止血開始後、止血部位から末梢にかけて循環（皮膚色、温度、痛みや痺れ感）に気をつける。

## ②出血に伴う注意点

：顔面蒼白を伴う場合は止血と共に出血性ショックの予防対策を取る。

：看護者に傷がある場合、手袋やビニールを使用し、なるべく患部、血液に直接触れないようにする。（患者、看護者両人の感染防止）

### <靴ずれ>

①発赤、疼痛：ガーゼ等を当て患部の保護と患部を楽な状態に工夫する。

②発赤、疼痛、水泡：患部の消毒後、消毒した針で水泡を突き、中の液体を排出させる。

その後外傷薬を塗布し滅菌ガーゼで患部を保護。

③発赤、疼痛、水泡の破裂による表皮の損傷：患部の消毒、外傷薬を塗布し、滅菌ガーゼで患部を保護。

④適切な処置後靴や靴下の状況確認と改善

### <毒虫に刺された時>

①アンモニア水や虫刺され薬を塗布し、患部を冷やす。

②患部を傷つけないよう注意する。爪が伸びていたら短く切る。

③蜂や特定の毒虫にアレルギーを持つ場合ショック症状に陥ることもあるので直ちに医師に相談する。

### <毒蛇に噛まれた時>

①傷の上方を縛り毒の移動、拡散の予防をする。

②患部を消毒した刃物で浅く傷つけ、血液と毒を吸い取る。但し口腔内に傷や虫歯がある人が施行しない。吸い出した物は吐き捨て何度も口を濯ぐ。

③あれば患部を石灰水で洗う。

④患者の安静を保ち、直ちに血清のある病院へ運ぶ。

### <毒草、薬品で皮膚がかぶれた時>

石鹼で何度も患部を洗い流し、必要があれば医師に相談。

### <眼に異物が入った時>

清潔な水かほう酸水で洗い流す。薬品事故や異物が取れない場合は擦らず眼科医に相談。

### <耳に異物が入った時>

水：耳を下に向け片足で跳ねさせ、タオルを当て耳を下に向け寝かせる。

虫：暗い所で外からライトを照らし誘き出す。

物：耳かきや面棒で取りだす。水、虫、物いずれの場合も無理にかき出そうとすると鼓膜を傷つける恐れがあるので、排出困難な時は耳鼻科医に相談。

### <熱傷>

①患部と全身状態の観察・ショックを予防する。

②清潔な水（5～10度位）で冷やす。衣服からの場合は無理に脱がさず上から冷やす。直接水道水を当てると程度によって組織を破壊することもあるので、ため水を使ったり布で覆ったりして冷やす。ヒリヒリ感が取れるまで冷やし必要に応じ医師に相談する。

③熱傷の程度

I度－発赤、紅斑、疼痛、熱感を伴う表皮、角質層迄の傷害。数日で治癒。

II度－水泡、発赤、びらん、強い疼痛と灼熱感、知覚鈍麻を伴う真皮に達する傷害。1～2週間で治癒。

III度－水泡、発赤、びらん、強い疼痛と灼熱感、知覚鈍麻を伴う真皮に達する傷害で各腺や根迄深い。II度より重く治癒に4～5週間かかる。

IV度－外見は蒼白、羊皮紙様を呈し無痛性。真皮全層、皮下組織に及ぶ傷害で治癒に一ヶ月以上かかる。

### <部分的な凍傷>

①患部が手足の場合救助者の腋の下等に挟んで温め、患部が耳鼻の場合布で覆う等する。以後は40度前後の湯でゆっくり温める。

②患部を直接摩擦したり、火で温めたりしてはいけない。

③変色、知覚異常を伴い改善が見られない等必要に応じ医師に相談。

### <打撲症>

①患部の観察（腫脹、変色、変形、痛みの程度）をする。

②患部を冷やすと共に患部に変化がないか継続的に注意する。

③患部が頭の場合は特に神経症状にも注意し必要に応じて医師に相談。

<骨折> 骨折にはヒビが入った程度の「不完全骨折」と完全に折れた「完全骨折」があります。不完全骨折の中でも子どもの若い骨に多いのは生木を折った時のようにメキメキとしなりながら折れた状態でこれを「若木骨折」と言います。また、完全骨折は周りの組織を傷つけない「皮下骨折」と筋肉や皮膚に損傷を与えた「開放性骨折」に大別されます。

①患部と全身状態の観察・ショックの予防。疑いの場合でも骨折処置を行う。

②骨折部を中心に全身の安静を図り、患部が動かぬよう副え木等で固定する。

（副え木がなければボール紙、雑誌、傘、ストック等で代用する）

③開放性の場合滅菌ガーゼで傷を保護し、出血を伴う時は骨折部に負担を掛けないよう止血処置をする。（傷は洗わない、また、骨が突き出しても中に戻さない）

④速やかに医師に連絡、状況を伝え指示を待つ。

⑤頭部骨折の時は明らかに重症扱いとし安静を図り医師に相談する。

<脱臼> 関節が外れ周囲組織に損傷のある状態を言い、強い痛みを伴います。

①患部と全身状態の観察・ショックの予防。

②患部を楽にする、冷やす、固定する。

固定の仕方ー肩、肘は痛くなければ体の方に固定し三角布で緩く吊るす。

ー股関節は膝の下に枕か衣類を畳んで入れる。

③時間がたつと戻しにくいので、速やかに医師に相談する。

<捻挫、突き指> 関節が外れかかったり戻ったりした状態、周囲の組織に傷害を与える事もあります。

患部の観察、冷やす、安静にする。

<熱射病> 長時間直射日光や高温環境の下で発汗し、体内の水分不足や電解質のバランスが崩れた時に見られます。体温調整機能の限界を超えて体内に熱がこもった状態を言います。

①症状ー頭痛、眩暈、倦怠感、疲労、あくび、口乾、皮膚乾燥（既に発汗停止状態）顔面紅潮、

体温上昇、嘔気、もうろうとした状態等。

②衣服を緩め涼しい場所に寝かせる。

③頭部、身体を冷やす。

④スポーツドリンクや薄い食塩水をゆっくり補給させる。

<脳貧血> 体調不良や過度の運動の後、一時的に脳内の血液循環が悪くなった時に見られます。

①症状ー顔面蒼白、眩暈、冷汗、嘔気等

②衣服を緩め足をやや高くして寝かせ、安静にする。

<食中毒>

①症状ー嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、発熱、ショック等。

②食べた物と時間の確認、食物が残っていたら、医師に見せるため保存する。

③毒素を薄める為可能なら水を飲ませてから吐かせる。

④保温、安静を保ち直ちに医師に相談。

<胃痛、腹痛>

①患部を圧迫しないよう衣服を緩め、患部が楽な状態にする。

②腹痛の時は膝を曲げ腹部の緊張をほぐす姿勢を取らせる。

③むやみに鎮痛剤を飲ませない。

④痛みの種類や程度（持続的、間歇的、鈍痛、激痛、我慢出来るか出来ないか等）、便秘や下痢（色、血液混入、程度）の有無、全身状態の把握に務める。

⑤下痢の時は脱水症状を起こしやすいので水分補給を行う。

⑥激しい痛みや他の症状があれば直ちに医師に相談。

<虫垂炎（盲腸）> 右下腹部の盲腸が炎症を起こした状態、進行すると癒着、破裂、腹膜炎、ショック等を起こし予後を悪くします。疑いの段階でも速やかに受診させ、医師の判断を得る必要があります。

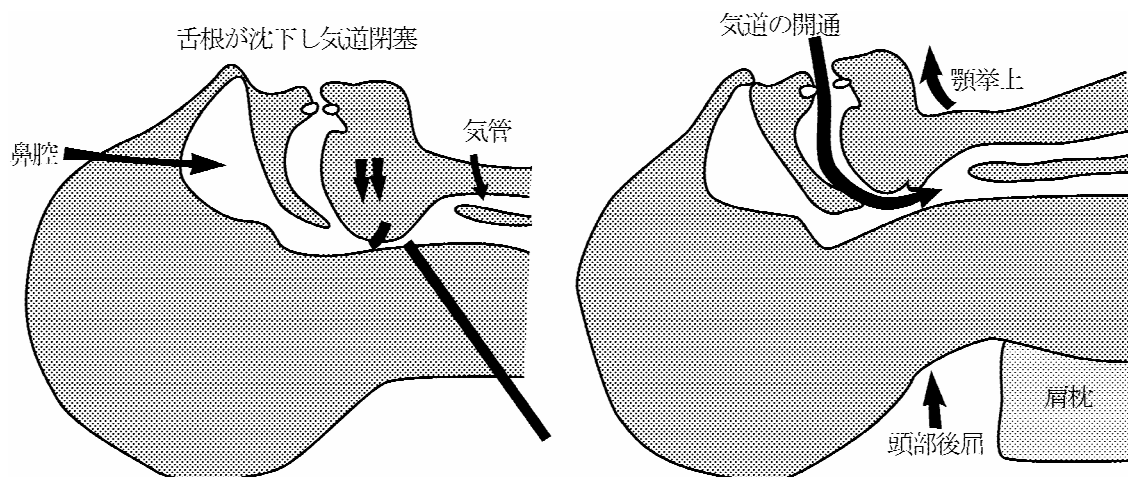
- ①症状—右下腹部痛、発熱、食欲不振、嘔気、嘔吐、腰痛、患部の腫れ等。
- ②患部を温めない。（炎症の促進）
- ③安静を保つ。
- ④全身状態の観察。
- ⑤直ちに医師への相談。

<鼻血> 鼻出血の大部分は、鼻の入口に近い鼻中隔粘膜の細い血管が、外傷（ひっかくこと、ぶつかることによる）や血圧や気圧の変化などで腫れて、出血することによります。

- ①座って軽く下を向き、鼻を強くつまむ（これで大部分は止まる）。
- ②額から鼻の部分をやや冷やし、ネクタイなどを緩め、静かに座らせておく。
- ③ガーゼを切って軽く鼻孔に詰めて、鼻を強くつまむ。
- ④止血しても、すぐに鼻をかまない。
- ⑤鼻出血の場合、頭を後ろにそらせると、温かい血液が喉に回り、苦しくなったり、飲み込んで気分を悪くすることがあるので、上を向かせない。
- ⑥もしこのような手当で止まらない場合には、もっと深い部分からの出血を考えて、医師の診療を受けさせる。
- ⑦頭を打って鼻出血のある場合には、むやみに止めようと時間をかけるよりは、早く医療機関に搬送する。

<呼吸停止> 意識低下に伴い下顎や喉の筋肉の緊張が緩み、舌根が喉の奥へ落ち込んで気道を閉塞します。呼吸が停止すると脳を中心に酸素が欠乏し、細胞が重大な損傷を受けます。一刻も早く呼吸を復活させなければなりません。

- ①症状—呼吸音や呼吸運動（胸、腹の動き）停止、チアノーゼ、意識の低下等。
- ②気道内に異物がないことを確認する。
- ③気道の確保—仰向けに寝かせ顎に救護者の指をかけるようにして顎を前上方に持ち上げる。頭は後ろにそる形となります。肩に枕を入れると更に気道が開きやすい。頭や頸部の損傷では患部を悪化させる危険があり無理に頭をそらせてはいけません。



- ④人工呼吸—気道を確保したら素早く自発呼吸（努力）、呼吸運動、呼吸音の有無と呼気を感じるかを確認する。自発呼吸がないか、不十分と思われる場合は人工呼吸を行う。  
方法：もう片方の手を患者の額に当てて頭を固定する。鼻を撮み口から口に空気漏れのないように息を吹き込む。この時肺に空気が届いているか胸部の動きを目で確認しながら行う。回数は5秒毎、子どもなら3、4秒毎に一回行う。場合によっては口から鼻へ息を吹き込む。

## （7）救急薬品の準備

いざという時のために、持ち運びやすくまとめておきます。簡単な物を以下に書きます。特に薬品は使用期限内に使える小分けのサイズの物を選び、期限が過ぎた物は破棄して新しい物と取替えましょう。

### ①医療器具等

体温計、ペンライト、ピンセット、鉗（先の尖った物、丸い物）、爪切り、綿棒、副え木、舌圧子（使い捨ての物）、毛抜き、耳かき、使い捨て手袋、氷嚢、氷けい、その他（ビニール風呂敷、割り箸、スプーン、ライター、マッチ、即席冷却剤等）

### ②傷の保護

滅菌ガーゼ、大きなガーゼ（m単位）、脱脂綿、油脂、包帯、包帯止め、三角布、絆創膏（幅の種類がある。また、紙や布等素材にも種類があり、紙は被れにくく、布は固定等にも使える）、眼帯、バンドエイド、防水テープ（プロテクターフィルム等）等。

### ③薬品

傷の消毒薬（オキシドール、エタノール、リバノール等）、うがい薬（イソジン、ほう酸、その他市販のうがい薬等）、外傷薬、虫刺され（虫除け：スプレーやハッカ油。薬：キンカン、痒み止め軟膏、タイガーバーム等）、小児用酔い止め、小児用鎮痛解熱薬、健胃剤、整腸薬（正露丸、ビオフェルミン等）、抗アレルギー薬（抗ヒスタミン剤）、冷湿布、温湿布、オリーブ油、アンモニア水、小児用風邪薬等。

## (8) 救急法実習について

緊急事態に遭遇して慌てないためにも、下記のところで日頃から救急法の講習会を受けましょう。

- ①各地域の消防署：受講希望会場を管轄とする最寄りの消防署に希望の日程、人数、会場を添えて直接申し込む。無料。地域によって申込方法や内容の差が考えられる。
- ②日本赤十字社の各支部：各都道府県の支部に直接申し込む。無料。

+++日本赤十字社問い合わせ先一覧+++ <http://www.jrc.or.jp/>

本社 住所：〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 電話：03-3438-1311

北海道 011-231-7126	神奈川県 045-681-2123	大阪府 06-6943-0705	福岡県 092-523-1171
青森県 017-722-2011	新潟県 025-231-3121	兵庫県 078-241-9889	佐賀県 0952-25-3108
岩手県 019-623-7218	富山県 076-441-4885	奈良県 0742-61-5666	長崎県 095-821-0680
宮城県 022-271-2251	石川県 076-239-3880	和歌山県 073-422-7141	熊本県 096-384-2111
秋田県 018-864-2731	福井県 0776-36-3640	鳥取県 0857-22-4466	大分県 097-534-2236
山形県 023-641-1353	山梨県 055-251-6711	島根県 0852-21-4237	宮崎県 0985-22-4045
福島県 024-545-7997	長野県 026-226-2073	岡山県 086-225-3621	鹿児島県 099-252-0600
茨城県 029-241-4516	岐阜県 058-272-3561	広島県 082-241-8811	沖縄県 098-835-1177
栃木県 028-622-4326	静岡県 054-252-8131	山口県 083-922-0102	
群馬県 027-254-3636	愛知県 052-971-1591	徳島県 088-631-6000	
埼玉県 048-829-2681	三重県 059-227-4145	香川県 087-861-4618	
千葉県 043-241-7531	滋賀県 077-522-6758	愛媛県 089-921-8603	
東京都 03-5273-6741	京都府 075-541-9326	高知県 088-872-6295	

連絡先資料提供ご協力：日本赤十字社 本社（平成18年9月現在）

## 日本宇宙少年団活動中の保険について

分団活動中に万一、怪我や器物を破損してしまった場合は、YAC本部が掛けている傷害保険や賠償保険をお使いください。

### 1. 保険対象条件について

- ① 本部登録をしてある指導者や団員が怪我をしたとき。
- ② 日帰りの活動のみ対象となります（宿泊活動は別途旅行保険を掛けてください）。
- ③ 指導者や団員が活動開催地への往復の途上の事故も対象となります。
- ④ 主催者または参加者が他人に怪我をさせた場合や物を壊した場合も対象となります。

### 2. 補償内容

	保険金の種類	保険金の内容	補償金額	お支払いする例
傷害事故	死亡	怪我のため、事故日から180日以内に死亡したとき	100万円	活動中に死亡または怪我をしたとき。
	後遺障害	怪我のため、事故日から180日以内に身体の一部を失ったり機能に重大な障害が永久に残ったとき（程度により3～100%）	100万円 限度	
	入院	怪我のため入院したとき（事故日から180日以内の日数）	1日あたり 1,500円	
	通院	怪我のため通院したとき。（事故日から180日以内の日数：90日限度）	1日あたり 1,000円	
賠償事故	対人事故1名	第三者の身体に損害を与え、法律上の責任を負ったとき（免責1,000円）	1億円 （限度額）	活動中の設営の不備や計画事態のミスにより参加者や第三者が怪我を負ったとき
	対人1事故	多数の第三者に事故が発生したときは1事故を適用	1億円 （限度額）	
	対物1事故	第三者の財物に損害を与え、法律上の責任を負ったとき（免責1,000円）	1億円 （限度額）	活動の設営の不備で参加者や近隣に被害を与えたとき

### 3. 引受損害保険会社

事故等発生した場合は、①参加者の氏名、住所・連絡先。②事故発生時の日時。③事故の原因と状況④怪我の程度、病院名(傷害事故)。⑤相手の氏名、住所、連絡先、怪我または損害の程度(賠償事故)を速やかに潮見サービスまでご連絡ください（事故発生30日以内）。賠償事故の場合は示談に際して事前に必ずご連絡ください。

株式会社潮見サービス	担当：那須	電話 03-5474-5951
日本興亜損害保険株式会社 公務部第四課	担当：松尾	電話 03-3231-7540

### 4. 保険金の不足分

上記の金額で不足と考える場合は、分団等が独自に保険をかけてください。

※レクリエーション保険

宿泊は対象外で、参加者20名以上の活動が対象となり、参加者名簿が必要となります。

保険金額例： 死亡690万、入院日額5,000円、通院日額3,000円

保険料：1人1日当たり43円（20人・12回・年間約1万円）

5. 宿泊を伴う活動について

「国内旅行傷害保険」に加入されることをお薦めします。

保険料金の目安 ・ 1泊2日：約400円（1人当たり）

（死亡1000万、入院日額5,000円、通院日額3,000円）

・ 3泊4日まで：約700円（1人当たり）

（死亡3000万、入院日額5,000円、通院日額3,000円）



## 2004年 リーダーのためのガイドブック（改訂版）編者について

財団法人日本宇宙少年団教育普及部団員サービス室が、1997年発行のリーダーのためのガイドブックを参考に、加筆・編集を行いました。

## 1995年 組織運営検討委員会・マニュアル作成分科会について

日本宇宙少年団設立後、数年が経過してみると、少年団活動の停滞あるいは分団活動の休眠状態が目立つようになり、全YAC活動の活性化と将来の発展を図らなければならないという機運が出てきました。そこで、YAC全組織の見直しをテーマにブレインストーミングを実施しました（1995年度中3回）。参加者は本部役員、団長、職員、分団長、リーダーとあらゆる立場の方々でした。

第3回(1995年2月11日)では、組織運営に関する有益な意見が出ましたが、それらを吟味し、具体化するための受け皿として、組織運営検討委員会の設置案が示され、最終的には分科会の設置も含めて、同案の実現を図ることとなりました。

この結果、本部内に諸手続きを経て、同検討委員会の第1回会議（1995年5月27日）が行われ、その際、「組織運営分科会」「マニュアル作成分科会」の2分科会が設置され、早速、分科会での審議がスタートしました。「リーダーのためのガイドブック」はマニュアル作成分科会でまとめられたものです。

（1997年発行 リーダーのためのガイドブック ～はじめに～ より）

### ※1995年 組織運営検討委員会・マニュアル作成分科会メンバー（役職は当時）

分科会長	増水 紀勝	（サンシャインテクノ分団 分団長）
委員	岩城 博年	（愛媛支部 支部長）
	麻生 大	（新つくば分団 分団長）
	亀谷 收	（水沢Z分団 リーダー）
	麻生 綾子	（新つくば分団 リーダー）
	宇津沢 真	（新つくば分団 リーダー）
	深沼 祈	（さくら分団 リーダー）
	福田 研一	（厚木分団 リーダー）
	杉田 淳	（厚木分団 リーダー）
	末松 政男	（藤沢分団 リーダー）

メ モ

リーダーのためのガイドブック（改訂版）

子どもとの接し方・プログラム案・安全管理編

---

1997年 2月 5日第1版第1刷発行

1997年11月15日第1版第2刷発行

1999年11月18日第1版第3刷発行

2003年11月 8日第1版第4刷発行

2004年 4月 1日第2版第1刷発行

2006年 9月30日改訂第3版

編 集 財団法人日本宇宙少年団

発行所 財団法人日本宇宙少年団

〒104-0043 東京都中央区湊2-2-8 CKビル5階

電話 03-5542-3254

---

**УАС**